平成20年度 施策評価シート

◆総合計画における位置付け等

平成20年7月3日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	21130
政策名(章)	第1章 人と自然にやさしい地域社会をつくります	評価担当局	環境経済局
基本施策名(節名)	第1節 地球環境の保全に向けた取り組み	施策所管課	環境保全課
施策名	公害防止対策の推進	課長名	服部裕明

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

公害を始めとする環境問題について、主な発生源である事業所の監視・指導を中心として、的確な対応を図り、健康と安全な生活環境の増進に努める。また、環境汚染の未然防止のために化学物質の適正な管理指導を行うとともに、これらの情報を広く市民に伝え、化学物質に関する理解の促進を図る。

全ての市民がより快適で質の高い生活環境を享受するため、大気汚染・騒音などの環境負荷を低減するとともに、心の豊かさを感じることのできる環境にやさしいまちづくりを推進する。

2 事業費·人員 (単位:千円)

年度	平成17年度(決算)	平成19年度(決算)	増減の主な理由
事業費	71,794	108,929	合併に伴う対象事業所数、測定地点等の増加に伴う機器の 増設、測定委託費の増加等
人件費	87,906		
市民一人あたりの事業費(単位:円)	108	154	
合計	159,700	108,929	

*人件費は、職員一人あたり H17:805万円、H19:805万円として算定。人口は、66.7万人(H18.4.1現在)、70.6万人(H20.4.1現在)とした。

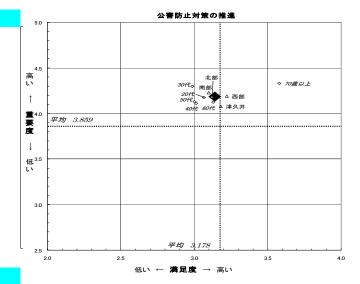
3 成果·活動指標

	THE WILLIAM		
	指標名	指標の基準値の定義	目標値の考え方(根拠)
指標1	大気・水質規制基準適合率	法(大気汚染防止法、水質汚濁防止法等)による規制基準 のある項目の測定結果が、基準に適合している事業所数の 割合。 規制基準適合事業所数÷延べ測定事業所数×100	100%になることが望ましいが、漸次、基準に対する適合割合(毎年度2ポイント程度)を向上させる。
指標2	調査測定環境基準適合率	大気、水質等一般環境で環境基準(指針)値が設定されている項目の測定結果が、基準に適合している項目数の割合。 環境基準適合項目数・延べ測定項目数×100	ほぼ基準に適合していることから、この状況 を維持することを主眼とする。
指標3	調査測定地点環境基準適合率	環境基準(指針)の設定項目の測定結果が、基準に適合している地点数の割合。 環境基準適合地点数÷延べ測定地点数×100	100%になることが望ましいが、漸次、基準に対する適合割合(毎年度2.5ポイント程度)を向上させる。
指標4	市民納得率	苦情解決の定義を、市民の納得が得られることとし、通報から3ヶ月経て再苦情がないものを解決とする。ただし、総苦情件数から原因不明等のものを除く。 苦情解決数÷全苦情件数×100	ほぼ納得が得られていることから、この状況 を維持することを主眼とする。
指標5			

	甘淮左 甘淮		甘淮左	+	H	19	H:	20	H:	21	H	22
	基準年	基準値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
指標1 (単位:%)	H17	92.5	95.0	90.6	97.0		99.0		99.5			
事業費/ 人員	Î											
指標2 (単位:%)	H17	97.1	99.0	98.4	99.0		99.0		99.5			
事業費/ 人員												
指標3 (単位:%)	H17	77.8	90.0	83.9	92.5		95.0		97.5			
事業費/ 人員												
指標4 (単位:%)	H17	98.2	99.0	97.8	99.0		99.0		99.5			
事業費/ 人員												
指標5 (単位:%)												
事業費/ 人員												

4 市民満足度調査結果(平成20年度実施分)

- 〇この施策の満足度は3.140で121施策の中で62番目。
- ○重要度は4.186で20番目である。
- 〇改善要望度は0.2581で17番目である。
- 〇年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、30代で 最も低くなっている。重要度は70歳以上で最も高く、40代で 最も低くなっている。
- 〇地区別にみると、満足度は西部で最も高く、南部で最も低くなっている。 重要度は南部で最も高く、津久井で最も低くなっている。



5 1次評価(2つの視点から評価を行う)

視点の 種類	評価基準• 着眼点	評価点	H18評価点	前回(H18)評価結果との比較分析	
有効性	各事業が果たす 施策に対する目 標の達成度合い を把握し、効果の 高い事業を実施し ている	42 1	42 1	指標の定義を見直したことにより、基準値が低くなったため、前回設定した 目標値との差が大きくなったことで、全体的に達成率が低くなっている。 指標2及び指標3では、水質で基準に適合しない項目(大陽菌)が増えた- 排出ガスや地下水の適合率が向上したため、実績値は基準値を上回った。 指標4について、今回追加したが、ほぼ横ばいの状況であった。	
古足港	市民満足度調査 により市民ニーズ を把握し、市民の 立場に立って事業 展開している	42 1	4(2)1		
合計 6		6		評価結果に基づく区分(2項目の合計点数による) A(6点以上) B(5点・4点) C(3点以下)	1次評価 A

^{*}Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

大気環境では光化学オキシダント、水環境では河川の大陽菌、地下水の有機塩素系化学物質(トリクロロエチレンなど)が、恒常的に環境基準に適合していない。これらは空間的・時間的な広がりを持つことから、市内事業所の監視・指導等だけでは改善が困難であり、かつ、短期間での大幅な適合率の向上は望めない。また、最近では生活系の騒音や悪臭に対する苦情が多く、これらは主観に左右されやすい感覚公害であることから、納得が得られにくく解決までの時間が長引く傾向にある。

大気環境については市内事業所の監視・指導をさらにきめ細かく行うとともに、地球温暖化対策を進める中で低公害自動車の利用促進を図る等により改善を目指すほか、国や他自治体との連携による広域的な取組を促すとともに、関係機関への要請等を行っていく。水環境についても、上流域の自治体との連携や津久井地域における下水道整備の推進や合併処理浄化槽の設置促進などにより改善を目指す。
また、環境基準と規制基準の違いや生活環境への影響など、市民に対しわかりやすい情報提供を心がける。

7 2次評価及び音見(1次 2次で評価に相違がある場合など 必要に応じて音見を記入)

/ 2次評価及び息見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて息見を記入)	
	2次評価
	Α
	7 2次評価及び息見(1次、2次で評価に相選がめる場合など、必要に応じて息見を記入)

*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

3次評価 A

*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

コード 21130

構成事務事業一覧

単位:千円

									単位:千円
事務事業 担当課	構成事務事業	H19決算見込 (事業費)	H20予算 (事業費)	H21見込額 (事業費)	事業効果 の高い 指標番号	前回の 優先順位	H17人員 (人)	H17決算額 (事業費)	H17合計 (人件費含む)
環境保全課	環境指導啓発費	2,615	2,183	2,426	1	1	4.94	2,121	41,888
環境保全課	環境基準監視費	_	-	-		2	1.21	21,935	31,676
環境保全課	環境等調査測定費	45,110	52,987	52,987	2	3	3.62	9,881	39,022
環境保全課	常時監視測定局管理運 営費	61,204	46,302	52,527	3	4	1.03	36,454	44,746
環境保全課	環境検査センター管理運営費	-	-	-		完了	0.12	1,403	2,369
環境保全課	個人住宅吹き付けアスベスト	0	1,500	1,500	4				0
									0
									0
									0
									0
									0
-									0
-									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
	1	108,929	102,972	109,440			10.92	71,794	159,700
						/	l		